

神奈川県立音楽堂開館 50 周年記念 シリーズ(円熟から明日へ)
音楽堂ルネッサンス！オペラ+イタリアの輝き1

若杉弘指揮 東京室内歌劇場 特別公演
パイジエッロ作曲

オペラ「美しい水車小屋の娘」原語上演・字幕付

18 世紀ヨーロッパを抱腹絶倒させたナポリの恋の空騒ぎ。

28 年ぶりに復活する音楽堂のオーケストラピットも話題です。

指揮・若杉弘

演出・鈴木敬介

出演・東京室内歌劇場

演奏・東京室内歌劇場オーケストラ

2005 年 2 月 20 日(日)15 時開演

*オペラ・プレ・トーク 14 時 15 分より

神奈川県立音楽堂

SS10,000 円 S7,000 円 A5,000 円 B3,000 円 学生 1,500 円

< 関連企画 >

マエストロ若杉によるプレレクチャー

12 月 18 日(土)14 時

神奈川県民ホール小ホール

2,000 円

オペラ「美しい水車小屋の娘」ストーリー

18 世紀ナポリ街外れの男爵令嬢の館。公証人ピストーフォロが令嬢エウジェーニアと従兄弟のカッロアンドロの結婚証明書を読み上げている。しかし花婿は土地付きの娘でも不美人の婚約者なんてとうそぶくは、財産目当てでエウジェーニアにいいよる騎士が出てくるはで結婚は最初から波乱の様相。そこへ美しく裕福な水車小屋の娘、ラケリーナが登場したから大変。公証人もカッロアンドロも彼女に一目ぼれしてしまった。カッロアンドロはさっそく彼女にいいよる、公証人は求婚するが、二人とも上手に逃げられてしまう。一方公証人のところに、年老いた行政官ロスポローネが内密の頼みにやってきた。なんと頼みの中身は、ラケリーナへの愛の橋渡し。ほどなくカッロアンドロまで同じことを頼みにくる。公証人はとぼけてラケリーナが「一人は頭が変」で「もうひとりはおバカ者」だと思っていると話をでっち上げ、大混乱。かたやエウジェーニアは婚約者が水車小屋の娘に夢中だとかんむり。とちめてやろうと策を練る。大混乱の中、ラケリーナは「私と一生粉挽きをして暮らす人を、結婚相手に選びます」と宣言するが、さてさていったい結末は…?

お問合せ: 神奈川県立音楽堂(財団法人神奈川県立芸術文化財団)

プロデューサー: 桜井健二 制作担当: 木村

〒220-0044 横浜市西区紅葉ヶ丘 9-2 TEL045-263-2567 FAX045-243-6216

<http://www.kanagawa-ongakudo.com>